

目指す姿

	前回検討委員会での意見（概要）	事務局の考え方
1	生まれたところでなくても、将来横須賀から出て行ったとしても、横須賀で暮らした時を大切にし、思い出になるような生き方ができたと思える土地であれば、他人にも自慢でき、誇れる。また、現在横須賀で活躍できていなくても、将来世界を股にかけて活躍できるようになったとき、自分の出身地は横須賀であり、こんなに良い場所であると誇れるような人になってほしい。（渡辺委員）	ご意見を踏まえ、「横須賀が好き」に込めた思いの中の「生まれ育ち、学び、暮らす地元への愛情・愛着を大切に」の部分を「人々と出会い、学び、暮らすこのまちへの愛情・愛着を大切に」と修正し、また、「横須賀で活躍し」の部分を削り、「横須賀の良さを、自信を持って発信できる人になってほしい」に修正します。
2	「生まれ育ち」「暮らす地元」という部分が気になる。横須賀で生まれ育った子どもばかりではなく、そういった子にとって少し抵抗感があるのではないか。例えば「この場所で出会い」のように「出会い」という言葉で置き換えられないか。（岡本委員）	
3	「生まれ育ち」という部分はなくても良いのではないか。（梨本委員）	
4	横須賀総合高校の目指す生徒像でも「横須賀の良さを世界に発信できる人間」を掲げ、横須賀で活躍することも、世界に出て活躍し、その中で横須賀の良さを発信することも、どちらも良い選択肢だと生徒に説いている。必ずしも横須賀で活躍するということに限定する必要はないと考える。（伊藤委員）	
5	「郷土愛」という言葉を使うと押し付けがましいと思われる懸念があるので、「郷土理解」などの表現が良いのではないか。（伊藤委員）	ご意見を踏まえ、「郷土愛」を「郷土理解」に修正します。
6	「横須賀が好き」はともかく「郷土愛」とストレートに表現するとナショナリズムや押し付けと受け止められる気がする。（櫻井委員）	
7	「郷土愛」は「地域への理解を深める」など、表現を変えなければならないのではないか。（梨本委員）	
8	地元を理解することは大事であり、子どもたちに環境や文化を活用し、守ってもらいたいという思いで考えれば、地元愛や郷土愛を全面的に出すよりも「環境を理解する」という表現の方が分かりやすいのではないか。（小野寺委員）	
9	当たり前のように歴史や文化、自然の良さがあるということと、それらについてさらに学び理解するといった内容も加えられると良い。（梨本委員）	

10	<p>「人づくり」とあるが、人づくりをする環境を作っていくことも行政の役割。「人づくりのための環境整備」と考えることも必要ではないか。(梨本委員)</p>	<p>教育に関する理念なので、「人づくり」とすることが適していると考えていますが、ご意見にあるとおり、「基本理念」という言葉の意味（響き）と「私が好き あなたが好き 横須賀が好き」というキャッチフレーズ的な意味合いも持つ言葉の組み合わせが違和感を生んでいるとも考えられますので、「横須賀の教育の基本理念」ではなく、「横須賀の目指す教育の姿」として掲げるように修正します。</p>
11	<p>理念は「基となる考え方」である。本来の理念は「私が好き あなたが好き 横須賀が好き」であるのに「人づくり」が前端的に捉えられてしまう。</p> <p>この基本理念を、個に対するアプローチ、協働的な学びの中で他者と認め合うこと、地域の環境、そして言葉の背景にあるものを教職員が大事にする、というように総合して考えると、理念を「人づくり」とすることは少し引っ掛かる。(梅谷委員)</p>	
12	<p>この理念はあくまで教育の理念であり、「人づくり」は最重要課題であるので、最後が「人づくり」で終わる方が違和感なく受け入れやすい。(伊藤委員)</p>	
13	<p>「人づくり」の部分を、「人へ」や「人に」に変え、その後続く言葉はそれぞれの想像に任せるような表現にすれば良いのではないか。(松浦委員)</p>	
14	<p>「基本理念」という表現は強く感じるので、「目指す姿」などにした方がマイルドで一般市民にとっても受け入れやすいのではないか。(小野寺委員)</p>	
15	<p>このイメージ図だと、矢印がつながって行って、最後に「横須賀が好き」という「郷土愛」に集約されているように見え、「郷土愛の押し付け」と捉えられてしまうのではないか。</p> <p>この3つの理念は、それぞれが相互に関係しているので、「横須賀で暮らしている私が好き」「あなたが好きだから、もっと私が好きになった」というように、様々な方向性、三つどもえ的な、並列・相互的なイメージ図を作れると良い。(松浦委員)</p>	<p>トライアングルも見た目では上下があり、横並びも一番左が最初、という順序がどうしても生まれます。また、上下・序列なしにこだわると、どこを見たら良いのかわからなくなるということもあります。</p> <p>今のイメージ図はキーワードがはっきり示せて、なおかつ、そこに込めた思いもセットで示すことができ、かつ、「説明資料」のような堅苦しさも軽減できると考えています。</p> <p>ご意見を踏まえ、矢印をなくした上で、今のイメージをベースにしたいと思います。なお、線形や配置、書体についてはデザイナーにデザインを依頼し、よりイメージを伝えやすいものにしていく予定です。</p>
16	<p>イメージ図は、上下や番号があるとそこに順序が発生してしまうので、そういった要素がない形で作成できると良いのではないか。(梅谷委員)</p>	
17	<p>「私が好き」が初めの取り掛かりだと、自己肯定感の持てない子どもたちにとって入りづらくなってしまふ。自己肯定感の低い子どもたちが置き去りにならないよう工夫する必要がある。</p> <p>イメージ図も、トライアングルのような形につながっていけるものであると良い。「あなたが好き」や「横須賀が好き」ということであれば、自己肯定感が低い子どもたちも少しずつ入り込んでいけるのではないか。(櫻井委員)</p>	

18	横須賀では様々な国の子どもたちが共に生活しており、この計画を多国籍の子どもや保護者たちにも配るのであれば、英語表記についても考慮すると、この基本理念がもう少し優しく伝わるのではないか。また、単純に英語の表記があれば、横須賀らしいと思ってもらえるのではないか。(小野寺委員)	ご意見を踏まえ、目指す姿や、そこに込めた思いを英語表記して周知することについて検討いたします。
19	小野寺委員から提案のあった英語表記は、すごく良いと思う。(櫻井委員)	
20	英語表記を加える案に賛成。英語以外の言語でも表現することや、英語にしたときにどのように表現するかなどの配慮が必要になってくる。(梨本委員)	

■ 教育委員会定例会での意見

	意見の概要	事務局の考え方
21	特に「横須賀が好き」に込めた思いの文章は良い。(荒川委員)	—
22	「私が好き あなたが好き 横須賀が好き」のフレーズは、なじみやすい。広く周知していくにはこのようなキャッチコピーは必要(澤田委員)	—
23	「好き」には、「自分や相手の良さに気が付く」だけでなく、「大切にする」ことも含まれるように思う。(澤田委員)	「好き」が意味する内容の補足説明に「相手や自分の良さに気が付く、大切にする」と加えます。
24	一人一人が自分の身近なことから他者のこと、社会の様々な問題に至るまで関心を寄せ、社会を構成する当事者として自ら主体的に考え、責任ある行動をとることができるようになることが大切である。(澤田委員)	—
25	「私が好き あなたが好き 横須賀が好き」というフレーズは覚えやすく、横須賀の目指す教育の姿を表現する言葉として良い。 また、「私が好き」と方針1、「あなたが好き」と方針2、「横須賀が好き」と方針3が対応付けられており、「誇れる人づくり」に必要な環境整備が方針4で示されている点も分かりやすく、良いと思う。(元木委員)	—
26	「自己肯定」「自立・自律」「主体性」「他者理解」「多様性」「協働性」「郷土理解」「地域の人や暮らしの中のつながり」のキーワードとどの柱が関係し、対応付けられているのかが示せると分かりやすい。(元木委員)	「目指す教育の姿」は全ての方針、柱、施策をもって実現していく、という考え方なので、対応関係を明確に示すよりは、「あらゆる面で関係する」というスタンスで策定したいと考えています。

■ 総合教育会議での意見

	意見の概要	事務局の考え方
27	3つの「好き」は良いと思うが、順番は「あなたが好き」が最初ではないか。(上地市長。下記参照)	これまでの検討委員会でも、「まずは自己肯定感が大事」という考え方もあれば、「私が好きから入ると、自己肯定感が低い子どもにとって入りづらいのではないか」「3つの関係は並列であり、相互に関係し合うものではないか」など、3つの「好き」の関係性に関する議論はありました。
28	3つの「好き」の順番も含め、あらためて検討委員会でご審議いただき、真意が伝わるような表現としたい。(新倉教育長)	事務局としては、「(今は)自分を好きになれない」という人への配慮に加え、これまでの「価値観の押し付け」に関する議論も踏まえ、他者理解や多様な価値観を認め合うことの大切さを表す「あなたが好き」を最初に持ってくることは、意味のあることではないかと考えます。 「目指す教育の姿」は、教育振興基本計画の根本となると同時に、市長が策定する教育大綱として位置付けていただきたいと考えており、今後、あらためて教育委員会と市長で協議いたします。 この度の市長の意見も踏まえ、あらためて検討委員会の皆様のご意見をいただき、検討したいと考えています。

総合教育会議（10月7日）における「横須賀の目指す教育の姿」に対する市長の所見（抜粋）

（上地市長）

3つの「好き」、なかなか良いと思います。ただ、個人的には、時間軸から考えると、「私」というのは「あなた」がいなければ「私」にならない。自分自身は後から来るもので、自分が好き、というのは第三者、あるいは「あなた」がいなければ「私」という認識はない。ですので、先に「あなたが好き」が来た方が良いのではないかとこの理屈が、どうしても考えられます。

あなたが好きで、彼女が好きで、彼が好きで、だから私も好き、という、自己実現とはそういうことではないか、自分自身では自分はわからないのではないかとこの思いがあるので、少し理屈っぽくなりますが、3つの好きはすごく嬉しいのですが、この順番は、個人的には、「あなたが好き、そして私も好き、だから横須賀も好き」としていただければと、まずは感じさせていただきました。

方針1 自立心と主体性のあるより良い社会の創り手を育てます

	前回検討委員会での意見（概要）	事務局の考え方
29	施策2「個に応じた学び」は、ICT教育など「個別最適な学び」への言及だと思うが、「協働的な学び」への言及がないように見られるので、そのあたりの要素も組み込めると良い。（梨本委員）	施策2「個に応じた学び」にぶら下がる事業は、ほとんどが施策1「主体的・対話的で深い学びの実現」の事業の再掲となるため、施策として独立させず、施策1と一本化いたします。
30	「個別最適な学び」と「協働的な学び」はセットであり、この2つを揃えた形にした方が良い。ただ、それは結局、施策1「主体的・対話的で深い学びの実現」に収れんされていくわけで、施策1と施策2は一本化して良いのかもしれないが、言葉としては、「個別最適な学び」と「協働的な学び」は強調しておきたいところではある。（小林委員長）	施策としては一本化しますが、新学習指導要領、令和の日本型学校教育のキーワードである「個別最適な学びと協働的な学びの一体的充実」は施策1のサブタイトルとして示し、強調いたします。 なお、これらを支える基盤的なツールであるICTの活用についてもその重要性を施策に示し、強調する必要があると考えますので方針4柱7「社会変化に即した教育環境」に施策17として「教育の質の向上に向けたICTの活用推進」を追加（別添）します。
31	—	施策7「食育の推進」は施策6「望ましい生活習慣の確立に向けた支援」と、施策8「運動やスポーツに親しむ機会の充実」は施策4「健康の保持増進・体力の向上」と一本化します。（事業内容を考慮した事務局による修正）

■教育委員会定例会での意見

	意見の概要	事務局の考え方
32	「個別最適な学びと協働的な学びの一体的実現」は、「令和の日本型学校教育」の構築を目指して（答申）や、教育再生実行会議「ポストコロナ期における新たな学びの在り方について（第十二次提言）」で大切にされているフレーズであり、横須賀の次期教育振興基本計画にしっかりと入れることは大変良い。ここからICT活用の取り組み等を含めて具体的な施策に広がっていくと思う。（澤田委員）	—
33	「学びの連続性を重視した教育の推進」は、学びの連続性ととも「学びの多様化」も重視することが大切である。「学びの多様化」は「個別最適な学び」含まれ、方針2柱4の「多様な教育的ニーズへの対応」にも入るのでこのままでも良いと思うが「学びの多様化」も大切であることを押さえておきたい。（澤田委員）	—
34	現行計画から継続する施策と新たな施策があると思う。今後の検討になると思うが、現行計画との関係性を明確にしてほしい。（元木委員）	現行計画との関係性については、示し方（次期計画に掲載するか、現計画期間の検証として別途作成するものに掲載するか等）を含めて検討します。

方針2 多様性を認め合う共生社会の担い手を育てます

	前回検討委員会での意見（概要）	事務局の考え方
35	「支援教育」という表現に少し引っ掛かりを感じる。横須賀には国立特別支援教育総合研究所もあり、「特別支援教育」にした方が良いのではないか。（梨本委員）	「特別支援教育」は障害のある児童生徒が対象となりますが、本市における「支援教育」は、障害の有無に関わらず様々な支援ニーズのある児童生徒を支援するものとしており、計画上も「支援教育の推進」という言葉を使用しています。
36	「不登校に関わる支援」は、他の支援のニーズもあると思うので、「不登校などに関わる支援」というようにすれば、そのようなニーズにも対応したものになるのではないか。（梨本委員）	また、不登校や外国につながりのある児童生徒が増えているという状況は本市の大きな課題と捉えているので、それらは施策として別建てにしています。

■ 教育委員会定例会での意見

	意見の概要	事務局の考え方
37	柱4「多様な教育的ニーズへの対応」は学校・家庭・地域の連携が重要だが、柱4の施策は学校を中心とした施策である。 「多様な教育的ニーズへの対応」に関する学校・家庭・地域の連携は方針4の施策「学校・家庭・地域の連携による教育力の向上」に含まれるのか。含まれるのであれば、「学校・家庭・地域の連携による学びと支援の推進」のように、学びだけでなく支援も含んでいることが分かるようにした方が良いのではないか。（元木委員）	「多様な教育的ニーズへの対応」に関する学校・家庭・地域との連携は施策18「学校・家庭・地域の連携による教育力の向上」に含まれますが、そういった支援も含めて「教育力」と捉え、その向上を図る施策名としています。

方針3 生涯を通じた学びを支援します

	前回検討委員会での意見（概要）	事務局の考え方
38	文化遺産だけでなく、自然環境に関する文言を入れていただけると良い。（梨本委員）	ご意見を踏まえ、「文化遺産・自然遺産の活用と将来への継承」に修正します。
39	図書館・博物館・美術館「による」ではなく、「における」豊かな学びの推進、という表現の方が良い。（梨本委員）	ご意見を踏まえ、「図書館・博物館・美術館における豊かな学びの推進」に修正します。
40	「図書館・博物館・美術館による豊かな学びの推進」は、「地域の歴史・文化・自然から得る学び」という柱から考えれば、記念艦三笠や浦賀ドックなど様々な歴史・文化施設や人材もあるのでこの3施設だけを強調することに違和感がある。さらに、柱6には「自然」も入っているが、施策にはその自然の要素が抜けてしまっている。横須賀には恵まれた自然環境があるので、そういった環境に触れて体験し、心豊かに学べる活動も加える必要がある。代案として、「地域の様々な資源や自然に接するなどの豊かな学びの推進」はいかがか。（渡辺委員）	この施策には、ご意見にあります「地域の様々な資源や自然に接するなど豊かな学びの推進」という側面があると考えますが、柱名「地域の歴史・文化・自然から得る学び」と同様のネーミングになるということと、やはり、市の施策として打ち出すには、市の代表的な社会教育施設である図書館・博物館（天神島自然教育園・馬堀自然教育園を含む）・美術館を示すことが市民にとってイメージしやすさにつながると考えますので、原案どおり施設名を出したいと思います。 これら3施設以外の自然環境、地域資源を活用した取り組みは、方針3の他の施策でカバーしているという考えです。
41	学校以外の教育施設というとなかなかイメージすることが難しいので、「図書館・博物館・美術館」という文言は入れていただきたい。（梨本委員）	

方針4 持続可能で魅力ある教育環境を整えます

■ 教育委員会定例会での意見

	意見の概要	事務局の考え方
42	I C Tは、環境整備だけではなく、活用についても扱う施策であった方が良い。「教育の質の向上に向けたI C T環境の整備と活用の推進」という施策名としてはどうか。（元木委員）	「個別最適な学びと協働的な学びの一体的実現」を支える基盤的なツールであるI C Tの活用についてその重要性を施策に示し、強調する必要があるため、ご意見を踏まえ、柱7「社会変化に即した教育環境」の施策17として「教育の質の向上に向けたI C Tの活用推進」を追加（別建て）します。